

Mesenchymal 型神経膠芽腫に対する抗体医薬の研究

1. 研究の対象

「創薬研究に有用な患者検体移植モデルの構築に関する研究（課題番号 2015-123、研究代表者 濱田哲暢）」にご同意いただき、PDX 株が樹立できた患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

神経膠芽腫（GBM）は 2010 年に遺伝子の発現パターンに基づいて proneural, neural, classical, mesenchymal の 4 つのサブタイプに分類されています。Mesenchymal 型の神経膠芽腫（以下、MES 型 GBM）は GBM の約 40%を占め、放射線治療や化学療法などが効きにくい（治療抵抗性を示す）ことから、最も悪性度の高い GBM と考えられています。

私たちはこれまでに MES 型 GBM に強く発現する遺伝子を発見し、基礎研究からこの遺伝子が GBM の増殖や浸潤・幹細胞性維持に関与することを明らかにしました。さらにこの遺伝子 MES 型 GBM の治療ターゲットとして有効であることを確認しました。

この研究では、抗体製剤による GBM に対する有効性を評価するため、患者腫瘍移植モデル（PDX モデル）を用いて評価を行うことを目的とします。

なお、この研究は東京大学大学院 医学系研究科、理化学研究所生命医科学研究センターおよび生命機能科学研究センターとの共同研究のもと行われます。

研究実施期間：研究許可日～2027 年 03 月 31 日

研究対象症例期間：1999 年 1 月 1 日～2020 年 3 月 5 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：「創薬研究に有用な患者検体移植モデルの構築に関する研究（課題番号 2015-123、研究代表者 濱田哲暢）」において樹立された PDX 株

情報：「創薬研究に有用な患者検体移植モデルの構築に関する研究（課題番号 2015-123、研究代表者 濱田哲暢）」において収集された、腫瘍の情報（ステージ、がん種など）、身体所見、血液検査、画像検査の結果、治療の効果など

4. 試料・情報の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や雑誌等で本研究に関わるしかるべき研究者が公表致します。また遺伝子解析のデータは、科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター（National Bioscience Database Center: NBDC）が運営する NBDC ヒトデータベースに登録し、国内外の研究機関や製薬企業等の民間企業において実施される研究に活用されます。個人の同意につながらない、情報は制限のないデータとして不特定

多数の者に利用され、個人毎のデータ等は制限のあるデータとし、審査を経て承認された研究者のみが利用します。

5. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への試料と情報の提供は匿名化した状態で行われ、特定の関係者以外が情報にアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

6. 研究組織

国立がん研究センター研究所	研究所長	
	細胞情報学分野	間野 博行（研究代表者）
	分子薬理研究分野	濱田 哲暢（研究事務局）
		柳下 薫寛
東京大学大学院 医学系研究科 病因・病理学専攻	応用病理学分野	
		宮園 浩平（研究責任者）
		田邊 諒
理化学研究所 生命医科学研究センター	がん浸潤・転移チーム	
		松本 武久
	生命機能科学研究センター	タンパク質機能・構造研究チーム
		白水美香子

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究代表者・責任者）：
国立がん研究センター研究所 研究所長・細胞情報学分野 間野博行
104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
03-3542-2511